

2019年度 研究科教育改善計画

研究科名	看護学研究科
研究科長名	原玲子

1-(1). 2018年度実施の研究科アンケート結果を踏まえ、研究科で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center; padding: 5px;">課題</td> <td style="padding: 5px;">研究能力の向上と同時に看護実践力の向上を図る</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">理由</td> <td style="padding: 5px;">看護学研究科の教育目標に、高度な看護実践力を育成することが掲げられているが、研究能力に比して看護実践力に対する院生の自己評価が低いため、研究能力と高度看護実践の関係を踏まえた見直しが必要である。</td> </tr> </table>	課題	研究能力の向上と同時に看護実践力の向上を図る	理由	看護学研究科の教育目標に、高度な看護実践力を育成することが掲げられているが、研究能力に比して看護実践力に対する院生の自己評価が低いため、研究能力と高度看護実践の関係を踏まえた見直しが必要である。
課題	研究能力の向上と同時に看護実践力の向上を図る				
理由	看護学研究科の教育目標に、高度な看護実践力を育成することが掲げられているが、研究能力に比して看護実践力に対する院生の自己評価が低いため、研究能力と高度看護実践の関係を踏まえた見直しが必要である。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center; padding: 5px;">課題</td> <td style="padding: 5px;">教育内容の充実と複数指導体制などの研究指導方法の改善を図る</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">理由</td> <td style="padding: 5px;">現在、主指導教員と副指導教員による複数指導体制をとっているが、「副指導教員の指導を受けなかった」「同席ではなく主、副正反対の意見があり困った」等の意見があり、体制の見直しが必要である。</td> </tr> </table>	課題	教育内容の充実と複数指導体制などの研究指導方法の改善を図る	理由	現在、主指導教員と副指導教員による複数指導体制をとっているが、「副指導教員の指導を受けなかった」「同席ではなく主、副正反対の意見があり困った」等の意見があり、体制の見直しが必要である。
課題	教育内容の充実と複数指導体制などの研究指導方法の改善を図る				
理由	現在、主指導教員と副指導教員による複数指導体制をとっているが、「副指導教員の指導を受けなかった」「同席ではなく主、副正反対の意見があり困った」等の意見があり、体制の見直しが必要である。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center; padding: 5px;">課題</td> <td style="padding: 5px;">教育環境の整備を図る</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">理由</td> <td style="padding: 5px;">院生室の物理的環境及び、大学の年間スケジュール等のインフォメーションに対する不便を感じており、研究開始が遅れる等の不利益も発生しているため、教育環境の見直しが必要である。</td> </tr> </table>	課題	教育環境の整備を図る	理由	院生室の物理的環境及び、大学の年間スケジュール等のインフォメーションに対する不便を感じており、研究開始が遅れる等の不利益も発生しているため、教育環境の見直しが必要である。
課題	教育環境の整備を図る				
理由	院生室の物理的環境及び、大学の年間スケジュール等のインフォメーションに対する不便を感じており、研究開始が遅れる等の不利益も発生しているため、教育環境の見直しが必要である。				
1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。					
①	<ul style="list-style-type: none"> ・院生に対して、履修ガイドに教育目的・目標、3ポリシーを掲げているので入学時のオリエンテーションを充実させる。在学生オリエンテーションを開催して、在学生にも意識づける。 ・教員に対して、各科目の内容に具体化に際し、特に研究能力と高度な看護実践力の関係を踏まえた教育内容となるよう周知する。 				
②	<ul style="list-style-type: none"> ・院生に対して、シラバスを活用した科目選択方法、主指導教員と副指導教員の役割等について、オリエンテーションで充実させる。 ・教員に対して、主指導教員と副指導教員による指導体制を充実させるよう周知する。 ・複数指導の基本的な体制を検討する。 				
③	<ul style="list-style-type: none"> ・予算及び環境整備担当の教員が主となって院生室の環境整備を定期的に行う。 ・環境整備について、院生と環境整備担当教員との連絡体制をつくる。 ・入学生オリエンテーションおよび在学生オリエンテーションを充実させる。 ・事務局から院生への連絡体制を充実させる。 				

2019年度 研究科教育改善計画

研究科名	事業構想学研究科
研究科長名	風見 正三

1-(1). 2018年度実施の研究科アンケート結果を踏まえ、研究科で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">学生に対する情報提供について状況確認と改善を検討する必要がある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">社会人に対する必要性が低い情報等も提供されていた。</td> </tr> </table>	課題	学生に対する情報提供について状況確認と改善を検討する必要がある。	理由	社会人に対する必要性が低い情報等も提供されていた。
課題	学生に対する情報提供について状況確認と改善を検討する必要がある。				
理由	社会人に対する必要性が低い情報等も提供されていた。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">研究発表会の効果的な運用や指導体制を構築する必要がある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">発表会のタイムスケジュールや情報共有等について見直しが必要。</td> </tr> </table>	課題	研究発表会の効果的な運用や指導体制を構築する必要がある。	理由	発表会のタイムスケジュールや情報共有等について見直しが必要。
課題	研究発表会の効果的な運用や指導体制を構築する必要がある。				
理由	発表会のタイムスケジュールや情報共有等について見直しが必要。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">社会人に配慮した科目配置や講義運営について検討が必要である。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">土日開講や領域ごとの科目配当などの効果的な運用は必要。</td> </tr> </table>	課題	社会人に配慮した科目配置や講義運営について検討が必要である。	理由	土日開講や領域ごとの科目配当などの効果的な運用は必要。
課題	社会人に配慮した科目配置や講義運営について検討が必要である。				
理由	土日開講や領域ごとの科目配当などの効果的な運用は必要。				
1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。					
①	前期課程・後期課程における必要情報や申請書類等について精査し、社会人に向けての的確な情報抽出や提供方法を検討し、教授会等で情報共有を行っていく。				
②	前期課程・後期課程における履修モデルを確認し、発表会（研究計画・中間発表・最終試験等）のスケジュールや申請プロセスについて、早期に履修生が理解できるよう、教授会等で情報共有を行っていく。				
③	領域毎の特性も踏まえながら、社会人の要請とその効果や課題（土日・夜間開講、集中講義方式、サテライトキャンパス活用等）について、研究科改革委員会を中心に検討し、研究科教授会等で情報共有を行っていく。				

2019年度 研究科教育改善計画

研究科名	看護学研究科・事業構想学研究科・ 食産業学研究科
研究科長名	西川正純

1-(1). 2018年度実施の研究科アンケート結果を踏まえ、研究科で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td style="padding: 5px;">学修評価の回答率が50%を切っており、継続的な改善が必要である。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由</td> <td style="padding: 5px;">研究科の場合、社会人学生の講義日が時間割通りでないことが原因と考えられる。また、教員からの周知も十分でない可能性もある。</td> </tr> </table>	課題	学修評価の回答率が50%を切っており、継続的な改善が必要である。	理由	研究科の場合、社会人学生の講義日が時間割通りでないことが原因と考えられる。また、教員からの周知も十分でない可能性もある。
課題	学修評価の回答率が50%を切っており、継続的な改善が必要である。				
理由	研究科の場合、社会人学生の講義日が時間割通りでないことが原因と考えられる。また、教員からの周知も十分でない可能性もある。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td style="padding: 5px;">学修に必要な文献等の入手が難しい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由</td> <td style="padding: 5px;">東北大学などの他大学と違い、電子ジャーナルなどへの対応が遅れている。</td> </tr> </table>	課題	学修に必要な文献等の入手が難しい。	理由	東北大学などの他大学と違い、電子ジャーナルなどへの対応が遅れている。
課題	学修に必要な文献等の入手が難しい。				
理由	東北大学などの他大学と違い、電子ジャーナルなどへの対応が遅れている。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td style="padding: 5px;">授業科目の開講時期と特別研究や就職活動が重なり支障が出ている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由</td> <td style="padding: 5px;">隔年開講の科目が多いので、博士前期課程では2年次の履修も多くなっていることが原因と推察される。</td> </tr> </table>	課題	授業科目の開講時期と特別研究や就職活動が重なり支障が出ている。	理由	隔年開講の科目が多いので、博士前期課程では2年次の履修も多くなっていることが原因と推察される。
課題	授業科目の開講時期と特別研究や就職活動が重なり支障が出ている。				
理由	隔年開講の科目が多いので、博士前期課程では2年次の履修も多くなっていることが原因と推察される。				
1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。					
①	本課題については、7月の教員会議・研究科教授会、学類（学科）会議で情報の共有化を図る。				
②	本課題については、電子ジャーナルとの契約を進めることが望ましいが、予算措置が可能か否かによるので、大学としての次期中期計画に盛り込むことを検討する。				
③	各領域の現在の履修年次を確認し、科目配置の適正化を図るよう、研究科教務委員会に検討を依頼する。				